

調査報告書

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3770300329		
法人名	医療法人社団 五色会		
事業所名	グループホーム たまもよし		
所在地	香川県坂出市加茂町194番地1		
自己評価作成日	令和2年10月 8日	評価結果市町受理日	令和3年 1月 4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日々の生活リズムを大切にしながら時間をかけて一人ひとり対応し入居者が不安にならないように配慮しています。入居者の得意な事、好きなことを引き出せるようまたは、継続できるように支援しています。老人保健施設と併設しており、医師、看護師、作業療法士、管理栄養士等の交流も簡単にできるので、入居者のちょっとした変化等の相談もでき、入居者の方も安心した生活ができるように努めています。季節ごとに景色のよい場所や、近隣にある喫茶店に行き、地域との交流も深めれるように取り組んでいます。

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社astream alliance
所在地	香川県さぬき市津田町鶴羽2360-111
訪問調査日	

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点】

五色台の自然に恵まれた静寂な一角に老人保健施設があり、その南側に2階建て1ユニットの事業所が位置する。運営母体が医療系のため、専門職との連携が活発で、互いに協力し合いイベントや行事・研修などが行われている。管理者や職員は、利用者や家族等との信頼関係も良好で、いつも笑顔で感謝の気持ちをもって介護にあたっている様子が伝わってくる。利用者は、本人の気持ちを大切にしている職員に見守られ安全・安心な生活が送られている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

1 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念 3771600636					
1	(1)	○理念と共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「いつも笑顔で感謝の気持ちをもって」をたまよしの理念とし、毎日笑顔になるような声かけ、日々の生活リズムを大切にしながらも焦らずゆとりを持ちながら対応できるよう努めている。また、スタッフや地域の中での役割を認識して具体的なケアについて考えている。	法人には理念があり、具現化したものが事業所の理念となっている。理念はほぼ職員にて実践されており、利用者や家族は職員からいつも笑顔で接しているとの評価がある。また、管理者や職員は地域貢献を意識した実践も推進している	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員としての日常的に交流している	地域の行事(文化祭等)や併設の老健保健施設の方々と一緒にイベントを実施していたが今の現状は地域の方々との交流が難しくなっている。日常的に交流ができるようになれば今まで通りの訪問ができるように努めていきたいと思っております。	コロナ禍で地域とのつながりを実践できない事情があるも解消すれば、併設の施設と合同でイベントや交流事業を引き続き行う事が予定されている	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々から認知症の方の対応について相談を受けたり、市役所と連携して認知症相談窓口として活動している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進会議を開き、市の職員(かいご課・地域包括支援センター)や地域の民生委員の方や介護相談員の方と話し合っている。内容については、サービスの報告、評価などを話し合い、今後のサービスの向上に向けて取り組んでいる。	運営推進会議は定期的開催され、有益な議題が話し合われている。一方として参加者の所属が固定化されている状況がみられる	コロナ渦にあり、運営推進会議の開催等も大変と感ずます。社会情勢が変われば、利用者や家族、地域の方等を更に巻き込んだ運営推進会議の実施と充実に期待します
5	(4)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所でグループホーム連絡会を定期的に開催し、市役所のかいご課の職員も出席されてケアに関する相談や地域の活動の様子等話し合っている。認知症窓口を作り協力関係を築くようにしている。6月の連絡会は中断しましたがリモートでの開催などを検討している。	市や市のかいご課担当者が運営推進会議に参加したり、定期的にグループホーム連絡会を開催している。それらの連絡や情報交換が地域の認知症対策に取り組みに役立っているなど、常に連絡を密に取り合う関係ができている	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会を1か月に1回実施している。また身体拘束の勉強会を事業所内で実施し身体拘束の対象となる行為を話し合い、職員の理解を深めている。	身体拘束適正化委員会を月1回、事業所内で勉強会を実施し、身体拘束をしない取り組みを行っている。利用者一人ひとりに合わせた対応が実践されている	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に勉強会等で高齢者虐待防止に関する理解を深め、遵守に向けた取り組みが出来るように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の必要なケースはなく、必要があれば職員間で話す機会をもち支援していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に事業所のケアに関する考え方や対応可能な範囲について説明を行っている。また、介護報酬の改定や制度改正等のほかに利用料が増加する場合はご家族と相談し理解を得られるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様からは日々の支援の中で意見を聴けるようにかかわっている。ご家族の方には訪問時や電話で問いかけ、なんでも話してもらえそうな雰囲気づくりに配慮している。意見、要望があれば苦情委員会やミーティングで話し合い運営に反映できるようにしている。	利用者や家族等に日頃より対話を心掛け、何でも話せる関係構築が図られている。家族より利用者の様子をよく報告してもらえるとの評価も高く、意見や要望があれば職員や管理者は苦情委員会や会議を通じて話し合い、運営に反映させている	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は共に職員の要望や意見を聞くよう心がけているが把握できていない部分は個別面談等ご家族で意見を聞くようにしている。また勉強会やミーティングで出た意見やアイデア話し合い改善ができるように機会を設けている。	代表者や管理者は勉強会やミーティングで、意見や提案をよく聞く雰囲気づくりを行い、職員からもよく意見などが出されている。また、個人面談等も行い提案や意見が運営に反映させられる仕組みが整えられている	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に向けた支援を行い、取得後は職員の意向を重視しながら、職場で活かせる労働環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の機会を段階に応じてなるべく多くの職員に受講できるようにしている。また勉強会等で発表し研修資料を閲覧できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的にグループホーム同士の連絡会で交流の機会を設けサービスの向上に向けて取り組んでいる。今年度は勉強会などの交流する機会が難しいが電話等では連絡を取り合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の置かれている状況を把握し、求めていることや不安な事を理解し、ニーズの対応ができるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が求めているものを理解して要望に対してどのように対応ができるか事前に話し合いをしている。また、ゆっくりとした状況で話を聞くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時本人やご家族の思いを大切に可能な限り対応している。場合によっては他の事業所のサービスにつなげるなどの可能な限り柔軟な対応もしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お互いが協働しながら、ともに過ごして支えあう関係を築いていけるように配慮している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の思いに寄り添いながら日々の様子や気づきの情報の共有に努め、相談しながら良い関係を築いていけるよう心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者本人がその人らしく生活するためになじみの場所の話をしたり、知人や友人の話などをして、継続的な関係が保てるように働きかけている。	利用者や家族等から、地域で暮らしていた時の馴染みの場所や人の話を聞き、本人の会話の中に取り入れるなどして、忘れず継続的なつながりが保てるような働きかけ等工夫した取組みが行われている	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係性がうまくいくように配慮し、孤立してしまわないように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も経過を見守ったり、必要に応じて相談や支援に努めている。ご家族から写真等で状況の報告があり必要に応じて相談にのっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声をかけ、言葉や表情から本人の希望や意向を把握に努めている。ご家族や関係者からも情報を得て相談しながら検討している。本人にとって最良な生活を検討し把握できるように努めている。	利用者や家族等から情報を得るとともに、日々の暮らしの中で現れる言葉や表情などからも本人の希望や意向の把握がなされている。本人からの把握が困難な場合には、本人とのかかわり方を家族や職員と相談しながら、より良い暮らしについて検討がなされている	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の関わりの中で本人の個性や価値観の把握に努めている。またご家族や地域の力を借りながら継続的に把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人ひとりの生活リズムを把握して、ご家族や関係者による情報にとらわれずに暮らしの中でできること・できる力を発見できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族から日頃の関わりについて思いや意見を反映できるように努めている。職員で話し合ったアイデア、意見も取り入れ利用者主体の介護計画を作成している。	日頃から利用者や家族等と話し合いを行い、課題やケアの在り方についての意向が反映された介護計画を作れるよう努められている。専門家の意見や職員のアイデアが反映されるよう、全員で計画づくりに取組まれている	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルに記入し、職員間で情報の共有に努めている。また記録をもとに介護計画の見直しや実践に活かしている。出勤時に記録等の確認をしてもらい評価を実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族の要望に応じて病院の受診やお孫様の結婚式の付き添いの委託や送迎など他の事業所のサービスを利用しながら臨機応変に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に坂出市の地域包括支援センターの職員や民生委員・介護相談員などに来ていただき地域の人の力を借りて意見交換ができる機会を設けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人やご家族が希望する病院に受診できるように送迎などの支援している。医療機関との情報交換など関係を密にし、十分な対応が行えるように支援している。	本人や家族の希望によりかかりつけ医が決められている。受診に関しては送迎などの支援を行い、情報共有もなされている。併設施設医師の往診や緊急時の対応も可能である	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置して日頃の健康管理や状態変化の対などの支援を行えるようにしている。また、些細な表情の変化を見逃さないように、早期に対応できるように取り組んでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院によるダメージを極力防ぐために本人への支援方法に関する情報交換や看護サマリーを作成し医療機関との連携を強めている。また、退院後の計画も積極的な支援を心掛けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けたマニュアルを作成している。本人や家族の意見を確認しながら医療機関との連携しながら対応している。終末期でも本人や家族の意向を踏まえ、医師、職員が連携を取りながら納得してもらえるように話し合い取り組んでいる。	事業所では重度化や終末期に向けたマニュアルが作成されている。また、入所時より重度化や終末期に向けた方針が本人や家族等に説明され、意向が共有できている。医療関係者とも連携しチームで支援できる体制である	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを作成しており、夜間等人手が少ない時の対応、その後の連絡方法などの緊急時について定期的に勉強会等で話し合っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設の老人保健施設と合同で定期的に防災訓練、土砂災害避難訓練を行っている。消火栓の訓練、避難経路の確認、非常用備品の確認も行い災害時の訓練をしている。	系列の施設と合同で協力した防災訓練が定期的に行われている。避難場所は併設の高い建物とし、食料や備品などの非常時の持ち出しも用意されている	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	援助時には本人の気持ちを大切に考え、さりげないケアを心がけている。尊厳を尊重し、自己決定しやすいような働きかけをするように努めている。	職員は一人ひとりの違いを受容し、さりげない介護が行われている。また利用者を尊重した相手の意思表示がしやすい声掛けなどが実践されている	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの状態に合わせて本人が答えやすく、選びやすいような働きかけをして、自分で決める場面を作り支援できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、一人ひとりのペースを大切に、それに合わせた対応を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人のこだわっているスタイルを把握し、その人らしさを保てるよう支援している。衣類の汚れ等はプライドを守りながらさりげなく支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみになれるよう利用者様の食べたいもの等を管理栄養士に相談し食事への関心を引き出すようにしている。おかずは厨房で作ってもらっているがお茶やご飯はホームで作り出来立てのご飯を食べれるようにしている。	おかずは調理場で管理栄養士のもとで作られ、ご飯やお茶は事業所で作られている。食事について利用者の要望は栄養士と相談されている。職員と利用者は一緒に食事の準備や片付けをしている	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量をチェックし職員全員が常に意識しながら気をつけている。また、嗜好品や食べやすいものを出すように工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で歯磨きができる方は声かけや見守りをしながら行っている。出来ない方は職員が介助している。毎月歯科より口腔機能についての指導や助言があり嚥下障害機能の予防に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自尊心に配慮し、身体機能に応じて手をさしのべたり、歩行介助や立位介助を行っている。トイレでの排泄を大切にトイレに行きたいと希望あれば可能な限り対応している。	トイレでの排泄の自立を目指して、一人ひとりの排泄パターンや身体状態に応じ、安全性に配慮した支援が行われている	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンを記録し水分補給や適度な運動をしてもらい便秘の予防に努めている。また、管理栄養士による食事のバランス調整や下剤の調整など個々に合わせて対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった入浴の支援をしている	平日は毎日入浴できるようにして、ゆっくり浸かりたい方など気持ちや習慣に合わせて支援している。車いすの方でも入りやすいように昇降の機械を導入している。	平日は毎日入浴が実施されている。お風呂場に昇降機も設置されている。また、要望に合わせてゆっくり入浴を楽しめるよう配慮されている。入浴の出来ない時には足浴や清拭など代替策が実施されている	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の方が安心して、休息できるように日中活動を促し生活リズムを整えるよう努めている。眠剤を飲まれている方には、日中の活動の妨げになっていないか確認している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬の処方、効能、副作用の説明をファイルに保管し、職員が分かるようにしている。また、服薬の間違いが無い様に職員同士で確認して対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの力を発揮してもらえよう、できそうな仕事を頼み、感謝の言葉を伝えるようにしている。また、時間の取れる限り外出を入居者の方と相談しながら行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルスが流行する前は、季節ごとの花の見学や喫茶に行ったりして支援をしているが今の現状外出ができていないので、できるようになれば可能な限り外出支援をしたいと考えています。	事業所ではコロナ禍で外出困難な状態であるが、短時間で少人数でのお花見や外出を実施している	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の協力も得て少額のお金を持っている方もいる。外出時の料金の支払いなどなるべく自分で払っていただけるようにお金を手渡すなど工夫をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホームの近くに電話を自由にかけてもらえる場所があり日常的に支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある花を居室に飾っている方やフロアの飾りつけにホームの周辺で咲いていた花などを飾ったりして居心地よい空間づくりに努めている。	事業所は他施設に接続しているが、独立型の建物で、窓から五色台の自然がよく見える。明るく広い廊下は清潔感があり、丸いリビングは利用者の憩いの場となっている。ところどころに利用者や職員の心づくしの花が飾られている	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブルの配置に配慮し入居者同士の関係性にも配慮し少人数でもくつろげる環境が出来るよう工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には入居者本人・家族との思いでの写真や思い出の物を飾り、やすらぎが感じられるように配慮している。テレビや家具の配置なども希望にそって配置している。	個室にはトイレと洗面所があり、ベッドや床頭台が完備されている。私物の持ち込みは自由にでき、思いおもいに居心地よく過ごせる配慮がなされている	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人にとって「何が分かりにくいのか」「どうしたら本人の力でやっていただけるか」を状況に合わせて環境整備に努めている。職員も混乱や失敗がないように配慮している。		